

さわやかハイク山行報告書

通算山行NO	NO. 104	報告者	佐々木和雄
年月日	2011年 5月 3日 (火) 晴・黄砂	2万5千	水上・茂倉岳
山名	上越・白毛門 (しらがもん・1720m)		
体力度=3・普通	技術度=4・残雪はやや難しい	道標=ある	駐車場=ある
トイレ=ある	展望度=素晴らしい	三角点名=	等級=
<b>隠れた名峰、残雪の白毛門</b>			
コース とタイム	5月3日 農協発 (4:10) —中央道八王子 JC—圏央道鶴ヶ島 JC (6:00) —関越道水上 IC (8:03) 経由、土合駐車場着 (8:30) —土合駐車場発 750m (8:45) —1100m 地点 8分休憩 (9:50) —松ノ木沢ノ頭 (1480m) —3分休憩 (11:09) —1520m 地点 (11:30) アイゼン装着—1575m 地点 (11:48) 3名断念、2名アタック (11:50) —白毛門登頂 (12:15) —松ノ木沢ノ頭 (1480m) 着 (12:58) —1200m 地点 3分休憩 (13:44) —950m 地点 (13:30~13:45) —登山口着 (15:14) —土合駐車場着 (15:23) —越後湯沢「みどりや」		
標高差	上り 土合駐車場発約690m~白毛門登頂1720m=約1030m 下り //		
参加者	CL後藤隆徳、SL村山忠彦、石和加代子、村上美恵子、佐々木和雄(記録)=5人		

昨年の5月連休の佐渡登山に引き続き、今年も5月連休の春山登山に参加させて頂きました。今回は残雪の多い本格的な山ということで登山前から計画的に体力トレーニングと用具の準備を怠りなく行いました。

昨年は佐渡ということで参加者も多く大人数での山行でしたのでバスチャーターでしたが、今回は参加者が5人ということで講師の車で移動させて頂きました。往路、復路ともに交通渋滞にも合わず、和やかに楽しく、遅い春が訪れた上越・越後の旅と温泉を十分に堪能することもできました。初日、多少黄砂の影響で空がどんよりしていましたが、まあまあ、天気にも恵まれ山の方は最高のコンディションで登ることができ、山の神に感謝する次第です。

今回、また山でドジをやらかしてしまい反省しています。ドジの中身についてはあまり報告したくありませんが、ちゃんと記録に残すように後藤講師から仰せつかりましたので、気が進ませが報告させて頂きます。

今回春山合宿ということで、初日は針の木岳を計画されていましたが、今年は例年以上に残雪が多く、折りしも白馬方面で雪崩による死亡事故、負傷事故、行方不明が多発しているということで、初日の山域を谷川岳 (1963m)、白毛門 (1720m)・笠ヶ岳 (1852m)、谷川連峰最高峰の仙ノ倉岳 (2026m)のいずれかに変更する旨講師から連絡がありました。5人で話し合った結果、最終的に白毛門 (1720m) に登ることが当日の朝決定されました。

関越自動車道水上 IC を降り、国道 291 号線 (清水街道) を上越線と平行し走ると 10 分ほどで湯檜曾駅を通過しました。ここらあたりから残雪残る迫力ある谷川連峰の山々が眼前に飛び込んできました。桜は今が満開でした。講師が以前宿泊した湯檜曾の温泉宿の

横を通りかかったときに、今回ここを予約したが急遽の予定変更ということで時遅く予約できなかった旨説明されていました。風情のある山の中の温泉宿、泊まって見たかったですね。近辺の公園のような場所にある公衆トイレで用を済ませ、土合の駐車場には予定より30分遅れで到着しました。車を降り、身支度を行い、8:45、いざ白毛門に向けて出発。8分ほど歩くと朝日岳・白毛門方向を示す道標があり、そこが登山口になっていました。

木の根と落ち葉で覆われた急な山道を10分位歩くと、道端には染井吉野桜に似た淡いピンクの花が咲いていました。“イワウチワ”（岩団扇）という花との説明がありました。早速、忘れないように写真と花名をメモしました。それにしても急勾配の登り、息は切れないが、険しい山道は都会の平らな階段で鍛えている私にとって歩きずらく難儀しました。いつものように前に行くMさんの喘ぎ声が聞こえてきます。

その声を聞きつつ、道端の“イワウチワ”を見つけては感動しながら、険しい急峻な山道を歩いていると、左側の林間に雄大で険しく、どっしりした谷川岳の山肌が見えてきました。



先頭から後藤講師、村上さん、石和さん

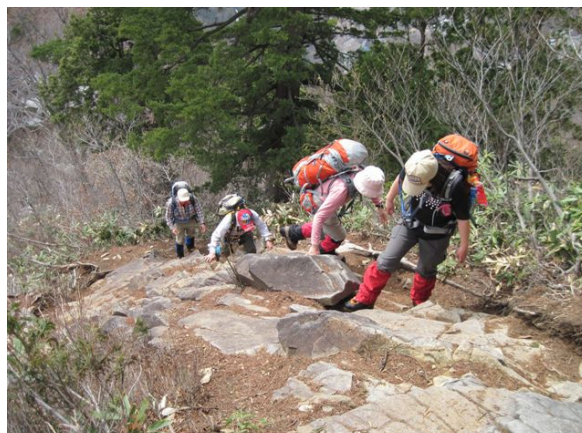


イワウチワ

1時間ほど登った(1000m)ころから登山道のところどころに残雪が現れてきました。雪はやわらかくトレースされているので、アイゼンは全くいりません。途中、村上さんの不要な荷物を滝の見える平坦な地点の木陰に後藤講師が隠し置きました。帰りに忘れないようにしないとね。

9:50 (1100m 地点)

最初の休憩(8分)をとる。そこから30分程登ると、登山道は雪道となってきました。



先頭から村上さん、石和さん、佐々木(記録)、村山さん

しかし、雪のない岩場も少しあり、これが春山特有の状況なのかなんて思いました。柔らかい雪道はつま先をトレースされた雪面に、蹴り込みを入れて歩くよう、後藤講師から指導がありました。要するに、柔らかな雪面に蹴りをいれ雪面に足場を作りながら歩行するということです。ここら辺では雪もやわらかくアイゼンを着用せずに歩行することができました。



先頭から村上さん、石和さん、佐々木（記録）、村山さん



先頭は後藤講師、村上さん、石和さん

11:09（松ノ木沢ノ頭 1480m 地点の下）2回目の休憩（3分）をとる。松ノ木沢ノ頭には既に下山途中の団体の登山隊が休憩していました。それで、そこを避け、少し先の平らな場所で3回目の休憩をとりました。ここからは、白毛門の山頂らしきものが初めて見えてきました。地図を確認し白毛門であることを確認しました。

ここから更に20分程登った場所(11:30)で、アイゼン装着の指示が後藤講師からあり、各自アイゼンを装着しました。私は買ったばかりの10本歯のアイゼンを装着するのに手間取ってしまいました。やはり冬靴でワンタッチで装着できるアイゼンのほうがいいですね。夏靴でも装着できる紐固定式ですが、ぬれた靴に紐を強く引っ張り固定すると、若干靴が反ったように感じました。やっぱり靴は冬仕様でないと駄目だとその時実感しました。

11:48（1575m 地点）ここで、山頂への急峻なアプローチ斜面を降りてくる、一人の男性が非常に苦勞しながら慎重に一步一步ゆっくり降りて来る様子が見えてきました。

確かにここで滑落したら100m下は岩場であり、非常に危険な箇所であることは、明瞭で、その慎重さは理解できました。大げさだよ、なんて後藤講師は話されていましたが、それを見た石和さんと村上さんは速やかに登頂をリタイヤーすることを宣言しました。山頂まで残り145mを残し、登頂をリタイヤーすることはもったいないと思いますが、賢明な判断だと思いました。しかし、私はまだ男としての変なプライドとリタイヤー宣言することの狭間で、大げさに言えば葛藤していました。

私には昨年、滑落経験があり、それが脳裏に染み込んでいるので、リタイヤー宣言するのに2、3分も待たず行うことができました。

無念だけどね。事故を起こしては本末転倒、安全第一主義で行きますわ。後藤講師、村山さんは果敢に山頂アタックです。



風が非常に強く吹いていてアタックを更に難しくしているようでした。

先頭に後藤講師、その後に村山さん、その後ろは若いアベックの登山者です。

このアベック隊はかなり重装備で笠が岳、朝日岳まで行かれるようです。

登るスピードの速い後藤講師が上から、登ってくる村山さんを撮影した写真が右の画像です。

下から見るよりも、非常に急峻に見えますね。

雪がかなりやわらかくなっているとは言え、ここの下りは非常に危険であると言わざるを得ません。後藤講師はザイルを持参しているので、問題あればハーネス・ザイルで安全に下山する保険はとられていました。



先頭から後藤講師、村山さん、若いアベック登山者



急斜面を登ってくる村山さんとアベック登山者

(後藤講師が上から撮影)

リタイヤー組は松ノ木沢ノ頭まで戻りのんびりと昼食をとりました。

ここは谷川岳の最高のビューポイントでした。

石和さんがトランシーバーでアタック隊と連絡をとり、12:15、登頂したとの連絡を受けたので早速、デジカメの望遠を最大限にしてあわててシャッターを切りました。その写真が右の画像です。



白毛門山頂に2人の人影、後藤講師と村山さんです。

(松ノ木沢ノ頭から超望遠で撮影)

12:15、白毛門登頂 (1720m)

後藤講師、村山さん、登頂おめでとうございます。



山頂に行っていない私が写真を見て報告するのも変ですが、山頂は思ったより雪が少ないようです。

山頂からの谷川岳の景観はやっぱり素晴らしい。

山頂からリタイヤ組みが待つ、松ノ木沢ノ頭（写真赤色丸部）、登山ルート（尾根）方面を見ると結構凄いところを登ってきたことが分かります。



後藤講師、村山さんは急峻な雪面を慎重に下り、13:58、後藤講師、松ノ木沢ノ頭に無事下山、村山さんもその後少し遅れて無事松ノ木沢ノ頭へ下山しました。

報告は最後になりましたが、



白毛門を背景に松ノ木沢ノ頭で全員の集合写真





今回の私のドジは、なんとザックを谷に転落させるという事件を起こしたことです。下山途中（950m 地点 13:30～13:45）、既に雪のなくなった細尾根の登山道でうっかりザックを降ろした時にザックを谷に落としてしまいました。

あれよ、あれよと言う間に、ザックはゴロン、ゴロンと回転しながら谷にスローモーション画像を見ているように谷へ落下してしまいました。

落下の様子を見ていると15mほど下の石楠花の藪に突っ込んで停止したように見えたが、そこにザックがひっかかったかどうかは、その時点では不明でした。非常に不安でした。“なにやってんの、しょがねえーな”と村山さんからお叱りのお言葉・・・

とてもそこから降りられるような斜面ではなく、私はただ困惑するばかりでした。村山さんが15m程下へ下山し、そこから平行に移動してザックの落下地点まで行くルートを探して模索していました。しばらくすると村山さんがザックの落下地に移動し、上から村山さんがザックを回収してる姿が見えました。

おおー、感謝感激、雨あられ、冷静沈着の村山さんの素晴らしい気転と判断、そしてその行動力で私のドジをリカバリーして頂きました。心から感謝いたします。村山さん、本当にありがとうございました。

ってことで、私のドジはメデタシ、メデタシで一件落着きました。ザックでなく人が転落していたらと思うとぞっとしますね。

雪山から下山し、少し緊張感が緩んでこんなことになったと思います。確かに寝不足、疲れもあったと思いますが、山は最後まで緊張感を緩めてはいけないという教訓だと思います。この失敗談が今後のさわやかハイキングの皆様の山行での参考になれば幸いです。

今回の下山中と車の移動中に、私以外にドジをされた事件もありましたが、それはここでは割愛させていただきます。皆様、ありがとうございました。



後藤講師、全員無事に下山でき、ありがとうございました。

(この後、越後湯沢温泉に移動・宿泊、駒子の湯で疲れをとりました)





その他の記述（後藤）

1. 早朝発の場合、注意力が散漫なので、忘れ物に注意しよう。再出発時、くどいくらい確認の事。
2. CLとしては、全員登頂出来ず残念。ロープを使えばOKだが、あの程度で上れない場合は止めたほうが無難。今後、あの程度はノーロープで上れる「技術・精神」を習得する努力・精進・修行をする。
3. 荷物落下はしばしばある。昔、5月の早月尾根でテント装備一式を池の谷（たん）に落としてしまった輩がいた。当然、山行は中止。重大な結果となった。やはり疲れ等で注意力が低下している。これも事故の一例だが、下山中は事故が多い事を認識のこと。